

指揮者・ピアニスト・作曲家 ミハイル・プレトニョフがおくる
自作自演とチャイコフスキーの傑作交響曲



◀アーティストの
メッセージ動画を
東京フィルYouTube
チャンネルで公開中!

日本の若者たちとの交流で生まれた 『14の音楽的記憶』

那須田 務(音楽評論)
※東京フィル「note」に全文を掲載

ミハイル・プレトニョフは世界的なピアノの巨匠であると同時に作曲もするいわばコンポーザー・ピアニストだ。ずいぶん前のことになるが、自身で作曲をすることについて尋ねたところ、「音楽家なら作曲や編曲をするのは当たり前ですよ」とこともなげに言い、理想の音楽家としてピアニスト、指揮者としても超一流だったラフマニノフを挙げていた。

東京フィルは、2005年にヴィオラ協奏曲、2013年に「ジャズ組曲」の日本初演を行なうなど、作曲家プレトニョフの創作の軌跡とともに歩んできた。そこで朗報。今秋11月の定期演奏会でプレトニョフ自身の指揮でチャイコフスキーの交響曲第4番とともに、近作「14の音楽的記憶」が演奏される。

この作品の成立背景には、マエストロと横浜の森村学園中高等部管弦楽団との心温まるエピソードがある。2013年3月、かねてからマエストロのピアノの熱心な聴き手だった森村学園中高等部管弦楽団の顧問の先生が、当時東京フィルのメンバーと親しくしていた縁もあって、プレトニョフの指揮によるサントリー定期シリーズを生徒たちと聴きに出かけ、ゲネプロの後で生徒たちがマエストロに挨拶したことが、同曲誕生の発端となった。

後日、生徒たちが演奏したラフマニノフの交響曲第2番終楽章の録音を

マエストロに聴いても
らったところ、大いに感
心し、喜んだという。生
徒たちの演奏の純粋な
響きが、若き日の記憶を
呼び覚ましたのだろう。
15歳から書き溜めてい
た曲を見つめ直し発展
させ、オーケストラのため
の13の小品集として編み
上げて「皆さんで演奏し
て欲しい」と森村学園の
管弦楽部に以下のコメン
トを添えて贈った。

「10代前半の時には思いもしなかった困難が点在しているのが人生です。学生の皆さんにとって音楽が心の友人としていつも寄り添い、辛い時は慰め励ましてくれるものになりますようお願いしています」。

その後、もう一曲付け加えられて現在のタイトル「14の音楽的記憶」となった本作は、過去の作曲家との長年に渡る内的な対話を通してプレトニョフの手でなされた再創造の産物と言えるもので、60分にも及ぶ大作である。〈前奏曲〉〈競馬〉〈秋〉〈おもちゃの行進〉など、シューマンの『子供の情景』やチャイコフスキーの『四季』などのロマンティックな小品を連想させるタイトルと親しみを持ちながらも、円熟の筆致と熟練の管弦楽法によって、聴き手を郷愁に満ちた夢幻の世界へと誘ってくれる。



製本された『13の小品集』の楽譜とともに記念撮影。世界初演に関わったメンバーは「今でもメロディが頭に残り、ハミングしてしまうほど愛着深い曲になっています」と語る



©上野隆文
チャイコフスキーの『眠りの森の美女』間奏曲でソロを弾く依田(2025年5月定期演奏会)

楽団員インタビュー | 依田真宣(東京フィル・コンサートマスター)

皆さんがイメージするチャイコフスキーの世界とは、またひと味違うチャイコフスキー第4番の世界をお届けできるのではないかと期待しています。マエストロ プレトニョフとの共演は、常に良い意味で期待を裏切られることの連続だからです。作品の持つ伝統やセオリーをすべて熟知した上で、どのように作品の世界を構築し、私たちの予想を裏切ってくれるのか…。毎回、大きな期待を胸にリハーサルに臨んでいます。マエストロの指揮は、指先から何かが「ぼんっ」と飛び出してくるような感覚があります。ほんの少し指先を動かすだけで、私たちの音楽空間そのものを動かしてしまうのです。マエストロを集中して見つめ

る私たちの視線の中で、指先からふっと「スパイス」のようなものが差し出される。その瞬間、本当に魔法の粉をかけられたかのような感覚になります。マエストロとの音楽作りは、いつもそんな魔法に満ちています。マエストロの表情や指先、そしてほんのわずかな体の動きひとつで、オーケストラの音がガラッと変わっていく。客席からは背中や手が少し動いただけのように見えるかもしれませんが、ぜひお客様には、「そのほんの少しの動きで、どう音が変化するか」という、その一瞬一瞬の変化に耳を澄ませていただけたら、より深くマエストロの世界を楽しんでいただけるのではないかと思います。

マエストロ プレトニョフの音楽はまさに「万華鏡」です。角ばった音が一切なく、丸みを帯びた柔らかな美しい響きの中に、まるで無限のパレットが広がっているかのよう。ピアニストとしても超一流ですが、その色彩感覚をそのまま指揮でも表現してください



インクランカ国際音楽祭2025(ドバイ)では、マエストロはピアニストとして東京フィルと共演

す。私たちが「赤」や「青」だと思っている色の中にも、実は「こんな青があったのか」「こんな赤が存在するんだ」と驚かされる。さらに、その新しく出会った色同士を混ぜ合わせるとどうなるのか…。私たちがまだ体験したことのない色彩感を、常に見せてくださる指揮者であり、ピアニストだと感じています。

今シーズン、マエストロ プレトニョフをお迎えできるのはこの一回限りですので、本当に貴重な機会だと思います。ぜひ会場へお越しいただき、マエストロ プレトニョフの世界を堪能していただきたいです。

11月
定期演奏会

11月15日(日) 15:00開演 Bunkamuraオーチャードホール
11月16日(月) 19:00開演 東京オペラシティコンサートホール

指揮:ミハイル・プレトニョフ (特別客演指揮者)
プレトニョフ／14の音楽的記憶(2024)
チャイコフスキー／交響曲第4番

公演の詳細、
チケットのお申
込みはこちらを
ご覧ください▶



主催:公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 協力:Bunkamura(11/15公演)
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))| 独立行政法人日本芸術文化振興会

チケット料金(税込)	SS席	S席	A席	B席	C席
定価	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
東京フィルフレンズ 10% OFF	-	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

※東京フィルフレンズ会員(入会金・年会費・随時申込受付中)のお客様はお電話でのご注文で各席10%オフでご購入いただけます。(SS席を除く)

東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 平日10時～18時(土日祝休)
※チケット発売日の土日祝のみ10時～16時で営業

東京フィルWEBチケットサービス

<https://www.tpo.or.jp/> クレジットカード決済
座席選択可・24時間受付・WEBからの購入は定価